「新型コロナウイルスとの闘い、在外の学校現場から」

チリ　サンチャゴ日本人学校

目次

① 学校の規模や子どもたちの実態
② 現地の新型コロナウイルス事情
③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
④ 実際の取り組み
⑤ 苦労した（している）こと
⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
⑦ 今後への課題

① 学校の規模や子どもたちの実態

- 本校は南米チリの首都サンティアゴにある創立39年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。
- 令和2年5月現在、児童生徒数は小学部24名、中学部6名の計30名である。
- 昨年の10月に起きた政府に対する抗議活動から暴動で治安に不安が出たことや今回のコロナウイルス感染症の影響により、児童生徒数が減少。
- 在籍児童生徒の一時帰国者はいない。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 3月 3日　チリ国内でコロナウイルスの感染者の1人目が出たとの情報。
- 3月18日　チリ全土に対して、90日の緊急事態宣言が出される。
- 3月20日　チリ全土に、4月24日までの全学校の休校措置が発表される。
- 3月22日　チリ全土に夜間外出禁止令、感染者数は1,000人を超える。
- 3月26日　居住地区に義務的自宅待機措置が出される。
- 4月17日　居住地区の義務的自宅待機措置が解除される。
- 4月21日　休校措置が延期、感染者数は10,000人を超える。
- 4月30日　感染者数は16,000人を超える。
- 5月 4日　感染者数は20,000人を超える。
  感染者が増えている地区では、新たに義務的自宅待機措置が出ている。
- チリの感染者数は増加している。外出禁止、自粛により、人通りは少ない。
  スーパーマーケットは開いているので、食料品の購入の心配はない。

③　新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯

- ２に記載の休校措置、義務的自宅待機措置が出て、児童生徒が登校できないため

④ 実際の取り組み

- 3月10日　保護者（4月入学予定も含む）に「入国してからの自宅待機のお願いと4月からの対応について」の通知を出す。
- この後、状況に変化があるごとにメールで通知を配付
- 3月19日　学校運営委員会理事の方を講師にZoomの講習会を開く。
- 3月20日　休校措置より、4月13日に予定していた始業式はオンラインで行うこと、入学式は登校できるようになってから行うことを決める。
- 3月26日　外出禁止になる前に全教職員が学校から仕事に使うものやデータを持ち出し、自宅へと運ぶ。文科省からの連絡で、新派遣教員は当分の間派遣見合わせとなる。派遣されるまでの間の授業のやりくり等の検討をする。
  児童生徒の家庭の端末、インターネット環境を調べる。
- 3月27日　教員は在宅勤務とし、Zoomによる職員打ち合わせを開始する。
- 3月30日　Zoomの接続テスト（教員と保護者）

- 4月2日　新年度の予定とオンライン時間割を保護者に配付
- 4月3日　オンライン授業に向けての教材研究を進める。
- 4月6日　義務的自宅待機措置が延長になったため、13日の始業式は教員が自宅から行うことを決める。
- 4月7日　新派遣教員を含めたオンライン職員会議を行う。
  この後、毎日、新派遣教員も打ち合わせに参加する。
- 4月8日　輸送事情の悪化により、日本から、教科書指導書、ドリル等が届かないことが判明。
- 4月13日　Zoomによる始業式、新入生の顔合わせを実施。教科書、プリント、学校だより等を特別外出許可をもらって児童生徒の家に届ける。
- 4月14日　オンライン時間割による授業開始。インターネットで使える学習支援ツールをまとめ、児童生徒保護者に紹介する。
- 4月20日　オンライン授業を新派遣教員も一緒に担当し、できる授業を検討する。現地講師によるスペイン語授業を開始する。

- 4月21日　休校措置が延期になり、27日の登校開始を断念する。登校開始日を確定できないので、オンライン授業を継続する。
- 4月22日　体力作りの対策として「自宅でできる運動・あそび等の情報提供」を作成し、児童生徒に配付する。
- 4月24日　職員全員出勤し、来週からのオンライン授業の準備、確認をする。
- 4月27日　オンライン授業を新派遣教員も日本から担当し、オンライン授業の実施数を増やす。
- 5月4日　「学校におけるコロナウイルス感染症対策」を作成し、登校開始に備える。
- 今後、登校できるようになるまで、オンライン授業を継続。毎週、児童生徒の家に学習課題やプリントを届けたり、電話連絡をしたりして、学習支援を続けていく。

⑤ 苦労した（している）こと

- オンライン授業の進め方（ノート指導、学び合い、定着度合いの確認等が難しいこと）
- プリント等の準備（輸送事情の悪化により、注文したドリル等の到着が遅れているため、自作しなくてはならないプリント、ワークシート等の量が膨大になっていること）
- 毎日のように変わる情勢に対策を考えなければならないこと

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 派遣教員が不平不満を言わず、熱心に仕事に取り組んでいること
- 新派遣教員もオンライン授業や教材作り等に率先して取り組んでいること
- 児童生徒とオンライン上でもコミュニケーションをとりながら授業を行えること（少人数だからできることであるが）
- 保護者からの言葉（オンライン授業をやってくれているおかげで、子どもの生活にメリハリがついていることなど）
- 中南米校長会のつながり（メールのやりとり、オンライン会議等での情報共有が力強い支えになっていること）

⑦ 今後への課題

- オンライン授業での技能教科への取り組み
- 授業の遅れと授業時数
- リル、副教材の輸送の遅れ、輸送費の高騰
- 新派遣教員の赴任時期の見通しが立たないこと、新派遣教員の住居の準備
- 新派遣教員がオンライン授業を行うために、時差の関係上、昼夜逆転の生活になってしまうこと
- 残っている教員の負担が大きいこと（担当教科、担当校務分掌の増加）
- 新派遣教員が赴任するまでは、残っている教員の配偶者（教員免許保持者）がボランティアで授業の補助をすることになっているが、長期間になると問題が出てくること（交通費や保険など）
- 人的支援、物的支援を早急に考えていただくこと